

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 緑丘 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

| 主として「知識」に関する問題 | 主として「活用」に関する問題 |
|--|-------------------------------|
| ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 | ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 |
| ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 | ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

| 生徒質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

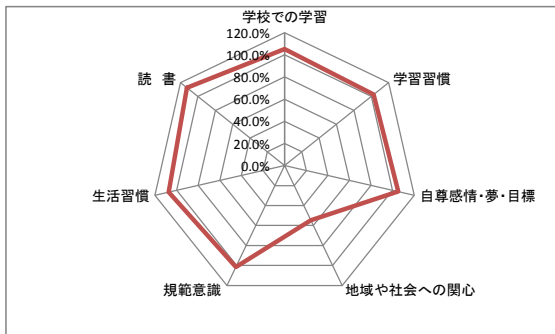
| 本年度の結果 | 国語 | | 数学 | | 英語 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 6.9 | 69 | 8.9 | 56 | 10.6 | 51 |
| 全国 | 7.3 | 73 | 9.6 | 60 | 11.8 | 56 |

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 自分の意見を書く問題は比較的よくできている。文章の展開に即して情報を整理し、内容をとらえる力が少し低い。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
| | よくできた問題 | 根拠を明確にして自分の意見、考えを書く問題。 | |
| | 努力が必要な問題 | 手紙やはがきの書き方。文章の展開に即して情報を整理し、内容をとらえる問題。 | |
| 数学 | 全体的な傾向や特徴など | 全国と比べて、数学的スキルはやや良いが、数量や図形などについての知識・理解がやや低い。 | 全国平均正答率との比較 同程度である |
| | よくできた問題 | 文字の式を使った説明問題、確率の問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 図形の証明問題 | |
| 英語 | 全体的な傾向や特徴など | 「読むこと」「聞くこと」の領域の問題の平均正答率は全国平均と比べ同程度であったが、「書くこと」「話すこと」の領域においては、全国平均を下回った。ただ、「話すこと」の問題では、無解答率が全国平均と比べても低く、何とか話そうとする姿勢はみられた。また、「書くこと」のまとまりのある文章を書かせる問題においても、正答率は全国平均と同程度、無解答率は全国平均よりも低いという結果が出ており、知っている単語や文法の知識を使って自分の考えを伝えようとする意欲は表れていた。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 日常的な話題について正確に聞き取る問題、まとまりのある文章を読んであらすじを理解する問題 | |
| | 努力が必要な問題 | まとまりのある英語を聞いて必要な情報を理解する問題、対話を聞き即興で質問する問題 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

何事においても、全国平均ははるかに上回ってできている」「満足している」状態と言える。グラフでは地域社会への関心が劣って見えるが、それでも全国平均以上を示している。しかし、読書はするが新聞を読まない傾向にあり、物事を多角的に、特に社会に目を置いた捉え方ができない。以上を踏まえて、社会性や相手の立場や広い視野に立った考え方を育てたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

意欲的に取り組んでいるノートやレポートを校内に掲示して、具体的な良いところなどを示すことで、学び方、ノートの取り方や整理、情報の処理の仕方を知らせている。文化学習発表会でも、先輩方のレポートへ関心を示し、それぞれに取り入れるきっかけとなっている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

1・3学年は、本年度より共通の自学ノート「midorinノート」を作って、利用の仕方を細かく指導している。参考になるものをコピーを展示して活用意欲向上のために活用している。2年生は昨年度からの自学ノートの取組を引き続き行っている。